

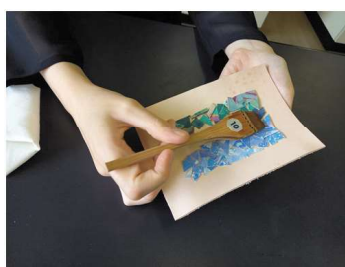
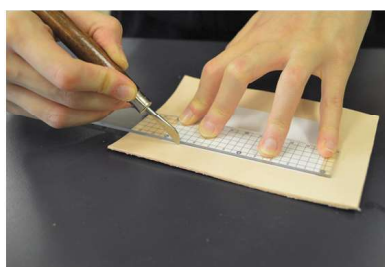
2022年 第4回 ものづくり チャレンジ大作戦への参加

本事業はものをつくる体験が極めて少ない現代の子どもたちに、ものづくりや科学・技術の楽しさ、面白さ、奥深さ、大切さを伝え、子どもたちの好奇心や探求力、職業への興味関心を育てることを目的に活動している一般社団法人ものづくり文化振興協会が主催している事業の1つです。なかでも、ものづくりチャレンジ大作戦は、企業や大学、高専、高校、中学校、各種団体などが連携し、毎年夏に小学生を対象として開催しているものづくり講座です。新型コロナウイルス感染症対策のため2年ほどオンラインでの開催でしたが、本年は対面方式とオンライン方式の2方式での開催となりました。本学からは、町田市こどもセンターまあちを会場とした対面方式に生活デザイン学科の3年生が参加しました。

活動は4月から始まりました。

子どもたちが安全にものづくりを体験するための条件を確認し、革の楽しさを子どもたちに知ってもらうにはどのようなものが良いか何回も話し合いや試作を繰り返し、革ひもを組む・編む、スタンピング、カービング、刻印などさまざまな案の中から、革片を使ったモザイクトレイを題材として講座を開催することとし、広報用の1分動画や手引書の作成、手順や安全の確認など事前準備を進めていきました。

写真は事前準備の様子
及び作品見本



令和4年8月11日に町田市子どもセンターまあちにて対面方式の講座が開催され、午前5組、午後5組の小学1年生以上の子どもたちが、90分という時間の中で、試行錯誤しながらオリジナルのトレーを制作することができました。講座を通して、革の取り扱いの注意事項なども随時盛り込みながら、革小物制作やものづくりの楽しさを教えることができました。

参加した学生たちは、ものづくりチャレンジ大作戦に参加することで、子どもたちに、ものづくりの楽しさを教えるためにどのようなものをつくれれば楽しくできるか飽きないか話し合いを重ね試行錯誤し、本番をスムーズに行うためには、作業手順の効率や安全性の確認など様々な準備が必要であり、またその準備に時間がかかることを体験し理解することができました。

また、子どもたちにもものづくりの楽しさを教えることで自分たちもものづくりの楽しさを体感でき、次回も別の作品で参加したいなど地域連携活動への意欲も深まり、多くの学びを得ることができる機会となりました。

写真は当日の様子及び子どもたちの作品



プロジェクト概要

●テーマ

子どもたちにもものづくりの楽しさを伝える

●パートナー

一般社団法人ものづくり文化振興協会

●担当教員

現代生活学部 生活デザイン学科 助教 佐々木 麻紀子

●実施期間

令和4年4月～令和4年8月